

特集

城東地区を訪れてみませんか

江戸時代からの伝統的な建築物などが数多く残されている城東地区。これまで地域と市では、町並み保存に取り組んできました。今年7月に、城東地区の町人地にあたる区域が、歴史的な風致を伝えるために価値が高いと判断され、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されました。そんな城東地区について紹介します。

関歴史まちづくり推進室 ☎32-7000



城東地区のあらまし

城東地区は、慶長8年（1603）に森忠政が津山城を築城した後、城の東側を流れる宮川以東に形成された城下町です。森忠政が作成した巧みな城下町の縄張り（都市計画）によって、出雲街道より北側・山手に武家地や社寺、出雲街道に沿って町人地が整備されました。慶長年間（1604～1614）に武家地の上之町（西部）と町人地の橋本町・林田町・勝間田町が作られ、寛永年間（1624～1643）に武家地の上之町（東部）と町人地の中之町・西新町・東新町が整備されました。

城東地区の町人地に残るもの

城東地区には、城下町の町人地として発展した町並みが1・2キロメートルにわたって続いています。

旧出雲街道には、間口（軒幅）が2間（1間は約1・88メートル）から4間程度、奥行きが17間程度の屋敷が並び、江戸時代に形成された町割りがそのまま残っています。また、屋敷の裏には、江戸時代に作られた背割り溝（排水溝）が、重伝建地区を囲む形で残されています。また、旧出雲街道を歩いてみると、街道が直角に折れ曲がる箇所には差し掛かります。これは、敵が城下へ侵入しようとした際、行き止まりと思わせるために作られたもので、鍵型と呼ばれています。



背割り溝の名残の一つ。旧出雲街道から延びる小路から、跡を見ることが出来ます

建造物で見られるもの

江戸時代から昭和10年頃までに建築された城東地区の建造物の多くは2階建てで、2階部分が低い主屋が並び、1階の屋根に本瓦が使用されて、重厚な軒が連なる町並みを形成しています。

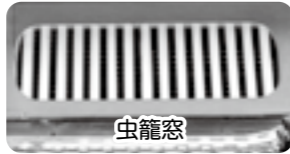
また、出格子窓や虫籠窓、なまこ壁、うだつ袖壁など、伝統的な日本建築の特徴を、色濃く、今に伝えています。



うだつ袖壁
防火や防犯のために作られました。時代が新しくなるにつれて、装飾的になってきます



出格子窓と腰なまこ壁



虫籠窓

これからの城東地区

重伝建に選定された地域では、今後も、伝統的な町並みを守っていきます。地域と市が協力して、歴史的な町並みを観光資源として生かしながら、町家の風景の保存・整備（修理・修景）を行っていきます。また、空き家の有効活用として、新しい店舗の出店も考えていきます。